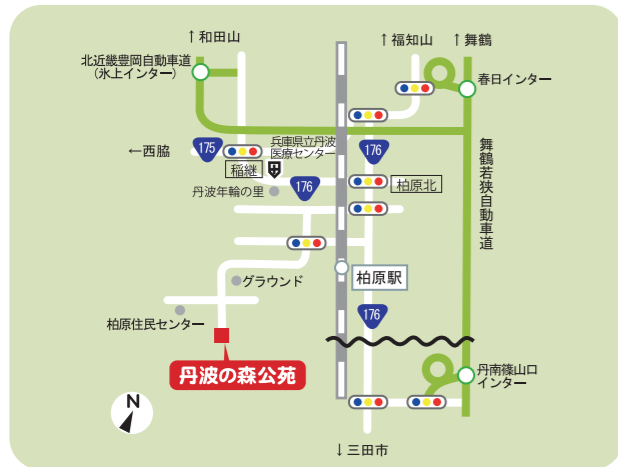


会場地図



丹波の森公園



丹波篠山市民センター

令和4年度（第32期） 丹波の森大学

学習の基本テーマ「森の恵み」



受講生募集



丹波の森宣言

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。
今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森づくり」を次のように進めることを宣言します。

- 1 丹波の健全な発展をそこのような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。
- 2 丹波の自然景観を大切に、花と緑の美しい地域づくりを進めます。
- 3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切に、個性豊かな地域文化を育てます。
- 4 丹波の素朴さと人情を大切に、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

昭和63年9月1日



公益財団法人 兵庫丹波の森協会

〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原5600
丹波の森公苑内

TEL:0795-73-0933 FAX:0795-72-5164



森文化の揺籃!丹波の森大学

昭和63年に、豊かな自然と文化を活かした丹波の地域づくりの指針である「丹波の森宣言」が、多くの住民の署名のもとに採択されました。これを受けて平成元年には、人と自然と文化が調和した地域づくりを目指す「丹波の森構想」が策定されました。

そして宣言採択から30周年を迎えた平成30年には、宣言の理念をしっかりと受け継ぎながら、社会環境やライフスタイルの変化をふまえた、新しい丹波の地域づくりが始まりました。

丹波の森大学も、新しい時代のなかでの個性豊かで誰もが幸せに暮らせる地域づくり・環境づくり、そして、それを支える「もりびと」づくりのためのより深い学習と実践の場として生まれ変わりました。多彩な講師陣による講義と現地学習をまじえた講座にご期待ください。

学長から一言

丹波の森大学では、年度ごとに基本テーマを決めて、そこに多様な切り口でアプローチします。今年度も、大学などで教育・研究を行いながら、地域づくりの第一線で活躍されている講師に登壇していただきます。また、原則として土曜日の午前に開講しますので、若者や仕事をお持ちの方など、様々な世代の方に受講していただくことができます。講義を聴くだけでなく、現地学習の機会もあります。地域で学び、そして地域づくり活動に関わることの醍醐味を味わってみられてはいかがでしょうか。

丹波の森大学学長 角野幸博



特別顧問
齋藤元彦
兵庫県知事



学長
角野幸博
関西学院大学建築学部学部長
丹波の森公苑長



学習の基本テーマ

学習の基本テーマ 「森の恵み」

丹波の森は、私たちにさまざまな恵みをもたらしてくれます。多様な動植物と豊かな生態系、水と緑が織りなす美しい風景、そして暮らしと産業を支える農産物や森林資源。その恵みのもとで、私たちは太古の昔から独自の生活文化を育んできました。

今、人口減少や産業構造の転換、自然災害やパンデミック、さらには地球レベルでの気候変動などが、丹波の暮らしを大きく変えつつあります。

今一度丹波の森の恵みを見直し、それを保全・活用することで、持続可能で魅力あふれる丹波づくりをめざします。

募集案内

定員

60名
(先着順)

講座回数

9回

受講料

8,000円
(学生は無料)

その他

- ★全講座受講者には皆勤賞を授与します。
- ★修了者（5回以上の受講生）には学長より修了証書を交付します。
- ★2歳～就学前のお子様の託児をご希望の方は事前予約が必要です。

お申込・お問合せ先

〒669-3309 丹波市柏原町柏原5600
公益財団法人 兵庫丹波の森協会「丹波の森大学」事務局
TEL:0795-73-0933 FAX:0795-72-5164

お申込方法

5月14日（土）までに、受講申込書（別紙）に必要事項をご記入の上、事務局までご持参いただくか、郵送またはFAXでお申し込みください。電話での申し込みは受け付けておりません。

定員を超えた場合は、募集期間内であっても募集を終了させていただきます場合があります。

※本大学は学校教育法に定める大学ではありません。

講師紹介

(敬称略)

第1回

5月21日（土）
（開講式 10時～）
10時30分～12時
丹波の森公苑



角野 幸博

丹波の森大学学長
関西学院大学建築学部学部長
都市再生や地域再生、郊外住宅地再生等、まちづくりの調査研究と計画立案に携わる。

講義テーマ

森のくらしの最前線

第2回

6月18日（土） 10時～11時30分
丹波の森公苑



小田切 徳美

明治大学農学部教授
専門は農村政策論、地域ガバナンス論
全国の農山村を歩き、「地域づくり」の実践から学び、地域再生のあり方や政策について具体的な政策提言も行っている。

講義テーマ

農山村からの地方創生

第3回

7月30日（土） 10時～11時30分
丹波篠山市民センター



尾藤 環

辻調理師専門学校 産学連携教育推進室 室長
辻調グループのPR、CSR、CSVおよび産官学金連携教育を担当。鳥取県・鹿児島県長島町・三重県志摩市・山形県鶴岡市と地方創生に関して、兵庫県豊岡市と地方創生や国際化人材の登用及び育成モデルに関する包括協定の締結に尽力。

講義テーマ

グリーン産業化を担う料理人と日本の職業教育の役割

第5回

9月10日（土） 10時～11時30分
丹波の森公苑



高田 和徳

いちのへ文化・芸術NPO代表理事
御所野縄文博物館館長
岩手県生まれ。明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒。1989年から御所野遺跡の発掘調査を開始。2003年から2年間、ロシアで土屋根住居の調査に携わる。

講義テーマ

世界遺産になった縄文遺跡の縄文里山づくりー岩手県御所野遺跡ー

第6回

11月5日（土） 10時～11時30分
丹波の森公苑



稲田 純一

兵庫県立淡路夢舞台公苑温室「あわじグリーン館」館長
株式会社ウイン代表取締役
シンガポール政府国家開発省公園レクリエーション局のシニアランドスケープアーキテクト、国立公園公園計画開発部長を務め、「ガーデンシティ」政策に関与。

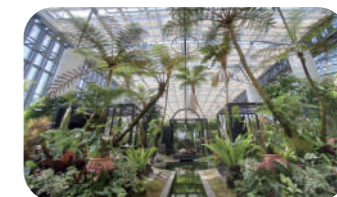
講義テーマ

“森のめぐみ”とランドスケープデザイン シンガポール・ガーデンシティの実践を通して

第7回

11月19日（土） 淡路島
(兵庫県立淡路夢舞台公苑温室「あわじグリーン館」他)

日本最大級の温室を見学します。昨年、兵庫県立淡路夢舞台公苑温室が装いを一新し、「あわじグリーン館」として開館しました。メイン展示室「にぎわいのにわ」は、成長する植物の「ガーデンキャッスル」がシンボルとして立ち、植物を身近に感じられる工夫が演出されています。また、淡路島の自然と歴史、食の恵みを体感する機会とします。



※参加費(バス代、入館料等)が必要

第8回

12月17日（土） 10時～11時30分
丹波の森公苑



アンナ・シュラーデ

関西学院大学産業研究所准教授
ドイツ生まれ。英国オックスフォード大学大学院にて歴史を専攻し、2017年博士号取得。
研究分野は欧州統合論、労働、起業。2018年4月～現職。EU共同プログラムのもと、ドイツと日本の近郊農村の活性化について調査研究を行っている。

講義テーマ

“森を愛する＝森を利用する～ドイツ人はなぜ森を愛するのか～”

第9回

1月14日（土） 10時～11時30分
(終了後、閉講式)
丹波の森公苑



岩槻 邦男

兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
東京大学名誉教授
丹波市出身。日本学士院エジンバラ公賞をはじめ、「自然と人間との共生」の理念に貢献した人や研究に贈られるコスモス国際賞を2016年に受賞。

講義テーマ

森、みどり、人ー森の恵みを識るー

※プログラムの日程は、講師等の都合で変更することがありますので、予めご了承ください。